

Dグループ

谷 公子(国府中)	元田理香(御幸中)
宮崎弘美(南部中)	中川由紀(松陽中)
北本ゆかり(芦城中)	森 みのり(板津中)
角谷佳世子(安宅中)	茶谷美雪(丸内中)
岡本眞由美(中海中)	中川明美(松東中)

「子育ての原点は家庭から」

～あなたはあたりまえのことを教えていますか？～

1. テーマの選定理由

3月11日に起こった東日本大震災は甚大な被害をもたらしました。日本中の誰もが、そして小松の子どもたちも、自然に対する恐怖や無情感を感じ、何らかの影響を受けたことと思います。親である私たちも、これからの厳しい時代を生きていく子どもたちの将来を思った時、自分で考え行動し、周りとうまくやっていける本物の「生きる力」を身につけさせることが、何よりも必要だと感じました。

今回、矢原先生の『これからの家庭教育』というテーマの講演会を拝聴し、本来家庭で教えられるべき あたりまえのこと を、今の子どもたちはきちんと身につけているのだろうか？と疑問に思いました。

昔の家庭であれば 父母、祖父母、兄弟たちから自然と躰けられ身につけていたことを、忙しい現代社会に生きる今の子どもたちは、はたしてちゃんと身につけているのでしょうか？もし身につけていないのであれば、それを躰けていない私たち親の責任でもあると思います。

あたりまえのこと が身につけていて初めて、本当の「生きる力」が備わっていくと考えます。そこで私たちは、子育ての原点に返り 家庭、家族それぞれの役割を考え、あらためて 家庭教育 について考えてみることにしました。

2. 取り組み方法

①市内中学3年生とその保護者を対象にアンケートを実施しました。

アンケート内容

A) 家庭における家事手伝いの状況及びそれに対する認識・考え方の調査

「あたりまえのこと」の原点は、まず人として身につけるべき基本的な生活習慣の習得だと考えました。そこで、どれだけ家事手伝いをし、家族の一員として生活する力を身につけているか、またそのことをどのように自覚しているかを確認しました。

B) アメリカの小学校教師であるロン・クラーク氏が著したベストセラー著書「あたりまえだけど、とても大切なこと」という本を参考にし、世の中で あたりまえだと思われる事柄に対する自己評価

基本的な生活習慣の習得の上に、更に社会に出て一人前の社会人としてやっていくための最低限の基本的なルール及びマナーを、どれだけ身につけているかを確認しました。

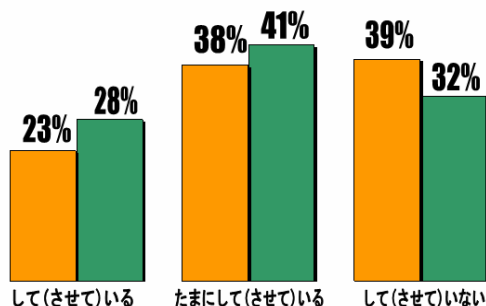
②Dグループ・母親委員の各家庭において、子どもにとって必要かつ基本的なルールやマナーについて改めて家族で考え、取り組んでみました。

3. 結果及び考察

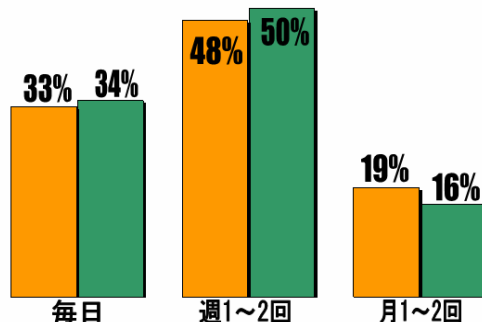
①市内中学3年生及び保護者へのアンケートより

A) 家庭における家事手伝いの状況及びそれに対する認識・考え方の調査

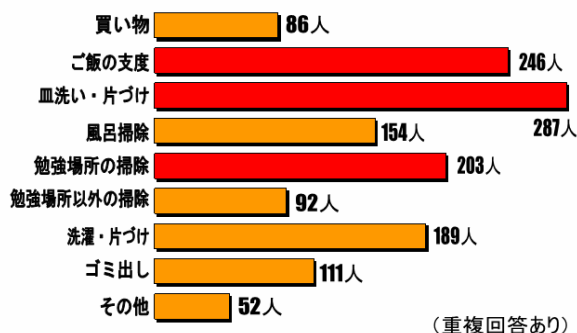
Q1) 現在、決まった家事の手伝いを
して(させて)いますか？ 生徒 保護者



Q2-1) どのくらいの頻度で家事の手伝いを
して(させて)いますか？ 生徒 保護者



Q2-2) それはどんな手伝いですか？ 生徒

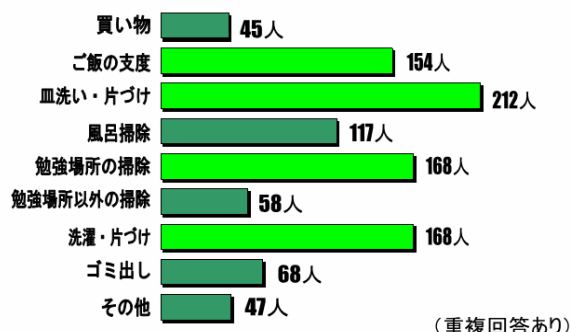


Q2-2) それはどんな手伝いですか？ 生徒

【その他として】

- ・布団上げ
- ・トイレ掃除
- ・階段掃除
- ・ペットの世話
- ・野菜の水やり
- ・家のこと
- ・家全体の掃除
- ・靴並べ
- ・アイロン
- ・米とぎ
- ・店番をする
- ・ご近所付き合い
- ・お風呂のお湯はり
- ・布団の出し入れ
- ・回覧板や新聞の取り入れ
- ・新聞をポストから持ってくる

Q2-2) それはどんな手伝いですか？ 保護者



Q2-2) それはどんな手伝いですか？ 保護者

【その他として】

- ・布団敷き
- ・兄弟の世話
- ・ペットの世話
- ・家のこと
- ・机ふき
- ・外の掃除
- ・洗濯
- ・料理の一部
- ・ご飯を炊く
- ・自分の制服のアイロン
- ・店の手伝い
- ・親の仕事の下準備
- ・お風呂のお湯はり
- ・草むしり等畑仕事
- ・市場に行く手伝い
- ・花壇の水やり
- ・宅配牛乳を冷蔵庫へ片付ける

見えてきたこと ①

- 約4割の生徒がお手伝いをしていない。
- お手伝いをしている生徒の中でも、毎日の習慣としてきちんとしている生徒は約3割強しかない。
- 保護者は生徒よりも「させている」という意識を持っている。
- 「皿洗いや片づけ」「ご飯の支度」「自分の勉強部屋の掃除」がお手伝いの大半を締めている。自分で使った食器の皿洗いや自分の勉強部屋の掃除は、自分に直接関わることで、自分でやるのがあたりまえ。家族の分もしているのであれば、役割分担ができていのか。
- 「市場に行く手伝い」や「店の手伝い」などは、自分も家族の一員として 家族や家のことを助けるという意識 があってできること。

Q2-3) 手伝いをしている良かったと思うところはどこですか？

生徒

- ・ 家族の役に立つ
- ・ 助かったと褒められる
- ・ 料理ができるようになった
- ・ 親の負担が減る
- ・ 自分のため
- ・ 親の大変さがわかる
- ・ 気分がすっきりする
- ・ 将来役に立つ
- ・ 家族とコミュニケーションがとれる
- ・ ご褒美がもらえる

Q2-3) 手伝いをさせていて良かったと思うところはどこですか？

保護者

- ・ 忙しい時に助かる
- ・ コミュニケーションがとれる
- ・ 自分からやるようになった
- ・ 家事の大変さがわかる
- ・ 責任感が養われる
- ・ 習慣になっている
- ・ 自分から気付けるようになった
- ・ 達成感と自信がついた
- ・ 感謝の気持ちを持てるようになった
- ・ 家族のルールと協力することを学べた
- ・ 自立心がついた

Q2-3) 手伝いをしている困るところはどこですか？

生徒

- ・ 面倒くさい
- ・ 次から次へとと言われてウザくなる
- ・ すぐにやらないと怒られる
- ・ やる気が出ない
- ・ 上手にできないと文句を言われる
- ・ 勉強の時間が減る
- ・ 自分の時間が減る

Q2-3) 手伝いをさせていて困るところはどこですか？

保護者

- ・ すぐ行動しない
- ・ お小遣いを要求する
- ・ 途中で投げ出す
- ・ 仕上がりが悪い、遅い
- ・ 自分から進んでしようとししない
- ・ 文句を言う
- ・ 言われなくてもしてくれない
- ・ させられていると思っている
- ・ 不機嫌な感じでやっている

Q2-4) なぜお手伝いをするのですか？

生徒

- ・ 将来の役に立つ
- ・ 親に言われたから
- ・ やらないとうるさいから
- ・ 決まっていることだから
- ・ 「助かったわ」と言ってくれる
- ・ 家族だから協力するのはあたりまえ
- ・ 自分も家族の一員だから

Q2-4) なぜお手伝いをさせるのですか？

保護者

- ・ 将来の役に立つ
- ・ 自分のことは自分でできるように
- ・ 自立心と自主性を養うため
- ・ 大人になってから困らないため
- ・ 父母の帰りが遅いから
- ・ 家族だから協力するのはあたりまえだと思っ
て欲しいから
- ・ 人の気持ちをわかる人になってほしい
- ・ 人のために役立つということがわかる

見えてきたこと ②

- 手伝いのメリットには、「家族の役に立つ」「親の負担が減る」など**家族として協力**できるという意見もあったが、「自分のため」や「将来役に立つ」など、**自立**につながる意見もあった。
- 保護者のメリットには「責任感が養われる」「自立心がついた」など、**子どもの成長**を感じる意見が見られた。
- デメリットには「面倒くさい」「自分の時間が減る」など、**自分中心的**な意見も多くみられた。
- 保護者のデメリットからは、「すぐ行動しない」「言われなくてもしてくれない」など、**自主的ではない**状況が垣間見えた。
- お手伝いをする理由として、「家族だから協力するのはあたりまえ」という**家族の一員としての自覚**がうかがえる意見があった。
- 保護者の中には「**自立心と自主性を養うため**」という意見もあり、お手伝いを通して様々な経験をし**自立**に繋げてほしい、という親の思いが感じられた。

B)「あたりまえだけど、とても大切なこと」の自己評価

Q3) 50の質問 参考文献：ロン・クラーク著「あたりまえだけど、とても大切なこと」

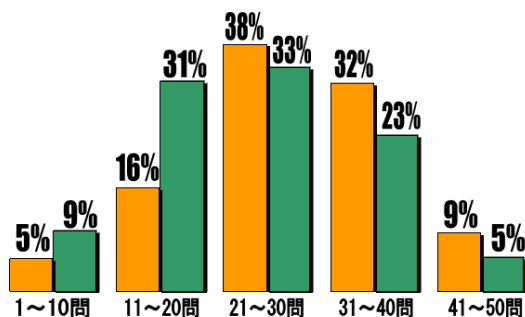
- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 大人の質問に礼儀正しく答える | 16 次の授業の準備をすばやくする |
| 2 公共の乗り物の中では大人しく座っている | 17 出来る限り整理整頓をする |
| 3 だれかがすばらしいことをしたら拍手をする | 18 宿題に文句をいわない |
| 4 だれかが何か落としたら、拾ってあげる | 19 代理の先生の授業でもルールを守る |
| 5 勝っても自慢しない、負けても怒ったりしない | 20 授業中は許可なく席を立たない |
| 6 だれかに質問されたら、お返しの質問をする | 21 先生にあいさつする |
| 7 口をふさいで咳やくしゃみをする | 22 お客さまを歓迎する |
| 8 何かをもらったら三秒以内にお礼を言う | 23 だれであれ、仲間はずれにしない |
| 9 もらったプレゼントに文句を言わない | 24 叱られている人のほうを見ない |
| 10 公共の建物に入るときはおしゃべりしない | 25 きみのなれる素晴らしい人間になろうとしている |
| 11 人の成績を言いふらさない | 26 きれいにあとかたづけをする |
| 12 人が読んでいるところを目で追う | 27 相手の目を見て話す |
| 13 エスカレーターでは左(右)側に立つ | 28 人の名前をしっかり覚える |
| 14 全員で廊下を歩くときはおしゃべりしない | 29 人の意見や考え方を尊重する |
| 15 宿題は必ず提出する | 30 食べ物をよくばって取らない |

Q3) 50の質問 参考文献：ロン・クラーク著「あたりまえだけど、とても大切なこと」

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 31 つぎの人のためにドアを押さえる | 41 映画館では絶対におしゃべりしない |
| 32 だれかとぶつかったらあやまる | 42 学校にお菓子をもってこない |
| 33 訪問先では何かをほめる | 43 もしいじめられたら知らせる |
| 34 集会ではおしゃべりしない | 44 信じるもののために立ち上がる |
| 35 意外な親切でびっくりさせる | 45 前向きに生きて、人生を楽しんでいる |
| 36 電話の応対をきちんとする | 46 したいことがあるなら、やってみる |
| 37 お世話になった人にはお礼をいう | 47 まちがいを受け入れる |
| 38 質問には完全な文章で答える | 48 いつも正直でいる |
| 39 自分から褒美を要求しない | 49 今日を楽しんでいる |
| 40 列に並ぶとき横入りしない | 50 宿題の内容について質問する |

Q3) 50問のうち何問選択できているか？

生徒 保護者



Q3) 50の質問

生徒

●選択率の高かったもの Best5

- | | |
|------------------------|--------|
| ① 32 だれかとぶつかったらあやまる | 83.19% |
| ② 37 お世話になった人にはお礼をいう | 83.09% |
| ③ 4 だれかが何か落としたら、拾ってあげる | 81.50% |
| ④ 7 口をふさいで咳やくしゃみをする | 80.34% |
| ⑤ 42 学校にお菓子をもってこない | 78.96% |

Q3) 50の質問

保護者

●選択率の高かったもの Best5

- | | |
|----------------------|--------|
| ① 23 だれであれ、仲間はずれにしない | 89.42% |
| ② 11 人の成績を言いふらさない | 86.57% |
| ③ 7 口をふさいで咳やくしゃみをする | 85.47% |
| ④ 27 相手の目を見て話す | 83.73% |
| ⑤ 37 お世話になった人にはお礼をいう | 82.62% |

Q3) 50の質問

生徒 保護者

●選択率の悪かったもの

- | |
|------------------------|
| 33 訪問先では何かをほめる |
| 14 全員で廊下を歩くときはおしゃべりしない |
| 50 宿題の内容について質問する |
| 24 叱られている人のほうを見ない |
| 35 意外な親切でびっくりさせる |
| 6 だれかに質問されたら、お返しの質問をする |
| 43 もしいじめられたら知らせる |

見えてきたこと ③

- 保護者より生徒の方が自己評価が高かった。保護者には自身の中学3年の頃を振り返って評価してもらったため、過小評価もあったのではないと思われる。
- 生徒の評価率の高い項目では、「ぶつかったら謝る」「お礼を言う」「落し物を拾ってあげる」などが選択されており、基本的なことがきちんと出来ていることに安心した。
- 保護者の方では「仲間はずれにしない」「相手の目を見て話す」「人の成績を言いふらさない」など、他人を気遣う項目も多かった。
- 評価率の悪かった項目で「訪問先では何かをほめる」「意外な親切でびっくりさせる」「質問されたら、お返しの質問をする」などサービス精神が必要な項目があり、これからのグローバルな時代を生きていく子ども達にとっては不可欠な項目だと思うので、今後に期待したい。

<子どもの言い分・親の想い>



子ども

お手伝いにより得るものは多いと感じている



しかし、部活や勉強が忙しい。時間が無くなる。



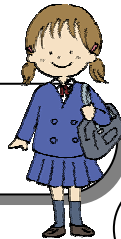
疲れていてもしなければならないのは不満



一方、50の質問の基本的なことはできている



社会的ルールは身につくつも
家庭でのルールには甘えがち？



家族からの感謝・励ましでやる気UP



頑張っ！



我慢してできるように
繰り返しにより能率アップ

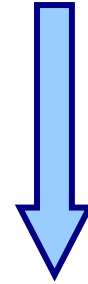


経験を通じて「自立心」・「自主性」が育つ

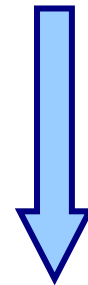


親

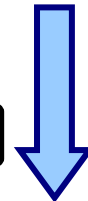
親も忙しく時間がない。自分でやった方が早くて仕上がりが良い。



子どもの自立する機会を奪っている？

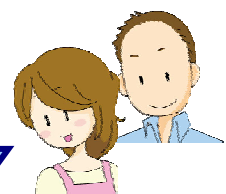
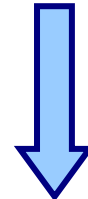


親も根気と忍耐力が必要



ありがとう！

温かく見守る姿勢、大切



②各家庭での取り組みより

Dグループ・母親委員の各家庭において、子どもの自立にとって必要なルールやマナーについて話し合い、現状必要だと思われるルールを決め、1週間～10日間程度取り組んだ。

取り組み例

- ・朝、自分で起きる
- ・自主的なお手伝い
- ・コミュニケーションをとる
- ・感謝の気持ちを表す など

取り組みから得られたこと

- 子どもの 自立 には 親の覚悟 も必要
習慣づけるには 根気 が要り、親も努力 しなければならない
家族単位・全員での取り組みが必要
- 自分で出来ることを増やすことで、自信への第一歩 となる
他人への気配りが出来たり、自主自立への足がかり となる
- 親の先回りで、子どもの「あたりまえにできる」ことを阻む壁を作っている
- 家族の会話を増やしてコミュニケーションを図る
- 「感謝の気持ち」を伝えるということも、社会に出る前の 基本的なマナー である

4. まとめ

昔は親が子どもの助けを必要としており、子どもは 手伝い をすることで家族に喜ばれ、自分は役に立つ のだという思いを持ちました。その思いが、子どもの 自信構築に重要な役割 を果たしたと言えるでしょう。ところが、経済の発展とともに 生活は便利 になり、また 少子化・高学歴化 も影響し、家庭は次第に 子どもの助けを必要としなくなりました。その結果、日本の若者は、諸外国に比べ自信度・自立度が低いと言われています。そして小松市では、中学3年生の約4割は1ヶ月に1度も手伝いをしない という状況です。

今回、母親委員会のアンケートや実践を通して、子どもの自立には親の考えが大きく影響する ということがわかりました。また、本来は子どもの自立を促すはずの親が、自身の忙しさのあまり先回りをしてしまい、子どもの自立を阻んでしまっている ということにも気付きました。

また、生活技術を身につけるだけではなく、他者を思いやる心や自分を大切にする心 を育むことも家庭教育であり、それらを目に見える形にしたものが ルールやマナー です。

子ども達が生き活きと学校生活を送れるように、社会に出てからも充実した人生を送れるように、様々なルールやマナーを教えるだけでなく、思春期の今だからこそ、そのルールがどうして必要なのかを、親子で根気良く話し合っていくことが、子どもを自立に導くための親としての責務 ではないでしょうか。

最後に、「あたりまえのこと」とは、時代を超えた普遍の常識 なのだということに、今回改めて気付かされました。子育ての原点 に立ち返り、今一度家庭教育を見つめ直し、親から子へこのことを繋げていかなければ、と切に思いました。